

**【冬山登山の事故防止について】**

県・市教育委員会を通じて、文部科学省から通知がありました。スキーやスノーボードなどの冬山におけるスポーツ活動を含め冬山登山に関わり、事故の防止に向けて山岳遭難対策中央協議会から出された次の警告に注意をはらって安全な活動をお願いしたいと思います。

**「冬山は十分な体力、装備、計画を！」**

冬山シーズンにおける転滑落や雪崩等による事故が後を絶ちません。また豪雪や急激な気象の変化に対応できず、行動不能になる事例も見受けられます。冬山は、**急激な気象の変化、大雪、雪崩**など激しい自然条件下にあり、たとえ優れた経験や技術、知識を有していても、天候の急変等により遭難事故に結びつく場合が多々あります。近年は、これまで雪の多くなかった山域でも豪雪となる場合があり、より正確な判断力や十分な装備が必要になっています。**登山は計画段階から無事に帰宅するまで、自己責任において行わなければなりません。**日頃から（公社）日本山岳協会及び各都道府県山岳連盟等の開催する冬山登山の研修会、講習会等に参加し、冬山に必要な知識や技能を身に付けるとともに、**冬山経験が豊かで適切な判断力のあるリーダーのもと**で、万全の準備を整えて登ることが肝要です。**十分なトレーニングに裏づけられた自信ときめ細かい計画が、心に余裕のある確実な行動を可能にします。「山に行つてから考えよう」は絶対に禁物です。**なお、遭難事故による家族や学校、職場、さらには広く社会に及ぼす影響を考え、**知識や経験、技術の伴わない登山者はこの時期の安易な登山は厳に慎んでください。**

また火山の噴火等、各山域特有の最新の情報を収集して登山計画を立てるようにしてください。

**【全校道徳について】**

12月16日(火)6校時、いじめ防止のための全校道徳を行いました。「いじめは絶対にしてはいけないことだ」という認識を深めること」「いじめ防止のための具体的な行動を強く意識すること」「学級や学年を超えて三中という枠組での仲間意識を新たにすること」という3つの目的を掲げて行いました。内容は、「いじめノックアウト」というテレビ番組のDVDを視聴し、ワークシートに自分の考えや意見をまとめるといった形でした。全校真剣に取り組んでいた姿が印象的でした。

DVDにあったMC高橋さんの言葉をいくつかピックアップします。「つらい気持ちは言葉にしないと伝わらない。」「何かをしようとして注意できることは嫌われる勇気をもつこと。勇気をもつことは難しいけど、そうしなくてはと思うことが大事。」「自分のことを守るより人のことを守る方が行動力が出る。」「みんなが仲よくは無理だけど、行動を起こせば何かが変わる。」「何かを人のためにやることは大事、でも、心の範囲を超えてまでやる必要はない。」

生徒の皆さん、全員で協力して、いじめのない学校を目指しましょう。いつまでも笑顔広がる三中でありたいものです。

**【1年の終わりと始まり】**

2014年もまもなく終わり新しい年を迎えようとしています。1年という時の刻みは一定ですが、中身はその年ごとに色を変え、違った味わいがあるものです。個々に感じる良し悪しはあっても、現在を迎えることができた今年1年間の歩みに感謝すべきであり、今年1年をベースとして来たる2015年に夢や志をもち期待を抱いて新たな歩みを進めていくべきだと思います。まさに年の移り変わるこの時期だからこそ、これまでとこれからについて考えを深め、進むべき方向を確かめるのにはいいチャンスだと思います。 よいお年を！！